

きいちレポート 9

平成25年12月議会報告



明けましておめでとうございます。きいちレポート9をお届けします。今年は体力アップ、景気アップ、消費税アップの年に！ JJJ?

ごあいさつ

地方分権が叫ばれています。要するに自治体の意思で柔軟な行政を行えるようにするという。もちろん長期的な視点から計画的行政運営が求められます。吉川市第5次総合振興計画もまた、行政ビジョンを定めた長期行政計画で、具体的事業は実施計画が定めています。財源計画のもとになる行財政改革推進プログラムは、表裏をなす計画であり、環境変化に応じて柔軟な見直しが求められます。12月の議会は計画のローリングをテーマに一般質問。

計画のローリングについて

吉川市総合振興計画の想定人口は7万5千人で人口増を見込んでいるが、一方農業地域からは人口流失が想定されており、これら地域特性に対応した計画の見直しを考える必要があると思われる。

問 実施計画に詳細な財政計画を定める考えは。

答 財源を見込み計画の実効性を高めることは重要であるが、個々の事業の成果や評価について、事務事業評価で示しているの、着実に計画の推進に努めていく。

問 農業政策における実施計画見直しの考え方は。

答 総合振興計画の前期基本計画で施策の枠組みを示し、実施計画において具体的な事業計画に取り組んでいるが、国の農政改革の検討が進み政策の制度化があれば市の事務が新たに生じると想定される。適宜実施計画の見直しをはかっていく。

問 生産基盤の整備事業について、その進捗状況を伺う。

答 吉屋地区において、平成24年度から県施行による埼玉型圃場整備事業に取り組んでいる。地区外の地権者に説明会を実施した。早期の事業化に向け個別の説明を進めている。

吉川美南駅周辺開発計画について

吉川美南駅周辺地域開発では、「夢」を描く！！

問 美南駅近くの中曽根跨線橋の構造改良を周辺開発計画に盛り込むべきと思うが。

答 中曽根跨線橋は、武蔵野線の東西を行き来できる利便性の高い道路だが、一部に老朽化や構造上の課題があり改善するためには多額の事業費がかかる。住民から意見もあるが、将来的な構造改良の際に、延伸する可能性を考慮して土地利用計画案を検討したい。



問 吉川美南駅周辺開発では中核となる企業等の誘致を念頭におき地域デザインの考えで計画化すべきでは。

答 第5次総合振興計画において、吉川美南駅を拠点に複合新拠点の形成を位置づけており、多機能型の新たな市街地形成を図っていく考えである。商業、業務、教育関係企業などから引き合いがあり「夢・未来にはばたくまち」の実現にむけ誘致活動を進めていく。



12月議会の感想: 新市役所庁舎の設計業務概要が示されました。オアシス東側の予定地に建設される予定の庁舎は、4階建て面積10,000㎡平成27年2月までに設計を完了する予定とのこと。しかしいくつか問題が指摘されました。一つは地盤の支持層の深さ。オアシス敷地の隣地なのに20mも深い。予算見積もりが、消費税の増税や建設資材の高騰などにより、**不透明**。役所として高い防災機能を備えなければならないのに、基本構想より1,800㎡も増床して、資金はだいじょうぶか？ <http://pokonin555.asablo.jp/blog/>

